

第 12 回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時: 2020年10月1日(木) 13:00~15:00

2. 場所: Microsoft Teams会議/JAXA東京事務所会議室

3. 出席者

(1) 委員

永井委員長、山本副委員長、浅島委員、岡町委員、奥村委員、佐宗委員、種家委員、西島委員、丹羽委員、浜崎委員

(2) JAXA/事務局

佐々木宏、川崎一義、小川志保、白川正輝、館下博昭、加藤充康 他

4. 議事要旨

各議題において委員より頂いたご意見をもとに、きぼう利用に関し現在の取組みを引き続き推進するとともに、2024年までに取り組むべき活動の見直し、その先の地球低軌道利用を見据えたきぼう利用の目指す姿の実現のための具体策を検討する。主な議論及びご意見は以下のとおり。

(1) 「きぼう」利用事業の概況(報告)

- 現在の「きぼう」利用に関する取組み状況を報告し、2024 年以降の利用を見据えたプラットフォーム(以下、PF)化の方針、テーマの重点化・絞り込みの考え方やテーマ公募等について議論がなされた。
- 各PF(小型衛星放出、タンパク質、マウス、ELF利用等)ではそれぞれ高い成果を挙げているが、特に顕著な成果創出に向け一層戦略的・多角的に推進すべき、利用成果について研究や実施の意義、何に貢献するのか等、分かりやすい説明が必要である旨ご意見があった。

(2) ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況について(報告)

- 「きぼう」利用の周辺状況として、国内状況や国際宇宙探査及びISS・地球低軌道に関する米国の動向等について報告し、ISS延長に関する状況や技術蓄積について議論があった。
- 2025 年以降の利用を検討する際は、成果を受けて計画・資金設定がなされる産業界の視点を意識することも重要、国際連携における我が国の優位性やこれまでに蓄積した技術等も踏まえ、今後も積極的な利用推進が必要、予算の制約がある中、日本としてのメリットや JAXA が実施すべき内容を簡潔に説明すべき等のご意見があった。

(3) きぼう利用戦略の実現に向けて(討議)

- きぼう利用戦略で示す 2030 年頃のきぼう利用の目指す姿を実現するため、ISS 退役後の地球低軌道利用に向けた取組み等について説明し、推進体制等について議論があった。
- 民間主体の宇宙環境利用推進は実施していくべきで、オープンイノベーションの活用や、国と民間での役割と資金分担を明確にし、必要な部分は確保すべき、ビジネスとしての視点からISS の短期的収支や経費構成、中長期的投資利益率等の考慮や「きぼう」以外の産業・業種への波及、JAXA による官民ファンドの可能性等にも幅広く着目すべき等のご意見があった。
- JAXA による支援(技術や資金等)の要/不要やその程度を識別することで、民間による利用推進方策の具体的な検討を行いやすくなる。様々な制約がある中で、地球低軌道利用を今後も維持するには JAXA がまず利用の意義・価値を端的に示すことが必要等のご意見があった。

以上